

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立館山さざなみ学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・友達と意見を交換し合ったり、話し合ったりする機会を設け、分かったことや気付いたことを発表する機会を設けたことで、自分の考えを整理して伝えたり、相手の話の要点を理解して聞くことができた。
- ・本の読み聞かせや対話などの機会を設けたことで、国語科の読むことへの学習意欲を高めることができた。

(2) 課題

- ・物語文や説明文の内容を理解することはできるが、それに対して自分がどのように考えるかを記述することが難しい児童が見られた。読み取るだけでなく、自分の考えを表現できるような指導や支援が必要である。
- ・自分の考えを話して伝えることはできるが、自分の考えを書いて表現することに困難を感じている児童が多かった。そのため、今後は自分の考えをノートやワークシートなどの記述する時間をしっかりと確保することが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	個人差はあるが、全体的に目標値を下回っている。		
第5学年	全体的に目標値と同等または上回っている。「漢字の読み書き」に課題が見られる。	おおむね目標値に同等、またはそれ以上の結果。（4年生時）	
第6学年	個人差はあるが、全体的に目標値を下回っている。	個人差はあるが、全体的に目標値を下回る結果。（5年生時）	全体的に目標値を大きく下回っている。（4年生時）

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字の読み・書きの部分に課題がある。 ・文章を書くことはできているが、文章と文章をつなぐ接続語や構成を理解して書くことに課題がある。	・話すこと・聞くことの部分については、話の要点を理解して聞くことができている。 ・物語文の内容については、叙述を基にして正確に読み取ることができるが、説明文の内容を読み取することに課題がある。 ・書くことの部分に課題がある。	・意欲的に参加しているが、書くことに苦手意識を感じ、進んで自分の考えを記述することができていない児童の割合が多い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字の読みはおおむね出てきているが、書きの部分に課題がある。 ・個人差はあるが、言葉の意味や使い方を正しく理解して活用することに課題がある。	・目的に応じて話の内容を捉えることができている。 ・個人差はあるが、物語文において叙述に即して、内容を読み取ることができている。 ・説明文に関しては、話の中心を見つけて要約することに課題がある。 ・自分の考えを整理して記述することに課題がある。	・意欲的に学習に参加しようとしているが、既習内容の定着に個人差があり、児童によって取り組む姿勢が異なる。特に、書くことに苦手意識を感じて、進んで自分の考えを記述できない児童の多数いる。 ・一つの領域が苦手と感じると、国語科全体に苦手意識をもっている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日々の漢字指導の際に漢字の成り立ちなどに触れ、興味をもって学習できるようにする。 ・学習した漢字を使い短い文章を書くなどして定着を図るとともに、語彙を増やせるようにする。 ・語のまとまりに気を付けて音読するよう指導を行う。	・読むことの学習において、読み取ったことについての自分の考えを短い文章で記述させるようにする。また、その際には、言葉を正しく使えているかを評価し、児童に伝えるようにする。 ・国語科以外の学習でも、自分の考えの説明や各行事の振り返りなどを、短い文章で書き表す機会を設ける。	・教員や図書委員の児童による本の読み聞かせや対話などの機会を設けることで、国語科の学習への意欲を高める。 ・書くことに苦手意識をもたないように、支援が必要な児童にはヒントカードを用意するなどしておく。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字を書くことに課題があるので、日記等などで既習の漢字を使って書くように指導を行う。 ・日々の漢字指導で、熟語を書くなどして、語彙を増やせるようにする。 ・日記等で正しい言葉の使い方ができているかを評価し、児童にフィードバックを行う。また、分からない言葉が出てきた時には、辞書を活用して児童自身が自分で正しい意味や使い方が理解できるようにする。	・授業後に、その日の学習で自分がどのようなことを学んだのかを振り返って記述する時間を設ける。 ・国語科だけでなく、他教科や行事の振り返りを行う際にも感じたことや考えたことを記述する時間を設ける。	・教員や図書委員の児童による本の読み聞かせや対話などの機会を設けることで、国語科の学習への意欲を高める。 ・今日のできごとを日記に表したりや行事の振り返りを書いたりするなど、児童が身近で書きやすいテーマを選び、児童の書くことへの苦手意識が軽減できるようにする。